

**1 題材名** 曲想を味わおう

教材名 鑑賞「威風堂々 第1番」エルガー作曲

表現「まっかな秋」薩摩忠 作詞／小林秀雄 作曲

「キリマンジャロ」ウォルフシュタイン・ウォルフガングヤス 作曲／橋本祥路 編曲

**2 題材について**〈題材観〉

本題材は、音楽を形づくっている要素や歌詞の内容と曲想とのかかわり合いに気付きながら曲想やその変化を感じ取って、音楽を想像豊かに聴いたり、思いや意図をもって表現の仕方を工夫したりすることをねらいとしている。児童はこれまでに、旋律の特徴や拍の流れによってリズムを感じ取る学習をしてきた。また「いつでもあの海は」や「リボンのおどり」では、いろいろな思いや意図をもって、旋律の重なり方に合う表現方法の工夫をしてきた。

本題材では、まず鑑賞の学習で曲想とその変化を感じ取って聴き、威風堂々では対照的な2つの部分が交互に出てくることなど楽曲の構造を理解する。そして、歌唱の学習においては、楽譜を見て、曲想の変化や歌詞に出てくる「まっか」や「照らされて」など一つ一つの言葉のもつ雰囲気にも目を向けさせ、思いや意図をもって表現の仕方を工夫させていきたいと考える。また、器楽の学習においても、鑑賞で気付いたり感じたりしたことを楽器の選択や重ね方の工夫に結び付けるようにし、曲想の変化に合った表現の仕方を工夫させていきたい。

本題材「曲想を味わおう」から、中学校第1学年の題材「混声合唱へのステップ」で曲想を感じ取って速度や強弱の変化、フレーズの特徴を生かした表現の工夫や、曲の構成に気を付けながら曲想の変化を感じ取って聴く学習につなげていく。さらに、中学校第2学年の題材「混声合唱の響き―様々な曲想の変化―」で速度や強弱の変化を生かして多様な表現を工夫し、旋律の動きを味わい、理解して表現する学習や、中学校第3学年の題材「合唱表現の工夫」 「合唱の喜び1」で強弱の変化を生かした表現を工夫する学習に発展していくと思われる。

**3 題材の目標**

- ・言葉の感じや曲想にふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって演奏する。
- ・曲想とその変化を感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさを理解し、味わって聴くようにする。

**4 研究の視点について****【視点2】小中連携を関連させた題材構成（指導計画）**

## ○鑑賞での学びを生かした表現の工夫

本題材では鑑賞での学びを生かして、歌唱教材や器楽教材に取り組む。中学校においても、「情景と音楽」という題材から「心の歌」「混声合唱へのステップ」という歌唱表現の題材へと続いていく。そこで、鑑賞が鑑賞のみで終わらず、学んだことを基に自分の思いや意図をもった表現活動につなげていくことで、学びの連続性をもたせたい。

## ○同じ教材で高め・深める学習

本題材で扱う「まっかな秋」は幼い頃から耳にし、小学校では「今月の歌」や「季節の歌」として歌っていたりするなど児童に馴染みのある曲である。同じように、小学校で扱った教材をもう一度中学校で扱うことも少なくない。そこで、本題材では聴く人やその年齢、気分によって音楽の感じ方や表現の仕方も様々あるということに気付き、これまでの学びと自分の感じた気持ちを大切にしながら、今の自分にできる表現は何なのかを考えさせていきたい。そうすることで、正しい音程で歌えたら終わりではなく、中学校において二部合唱から三部合唱になったり、同声から混声になり旋律やハーモニーが変化したりするなど、小学校での演奏との違いに気付き、より深い学びができるような児童に育てたい。

**【視点3】「音楽を形づくっている要素」を支えとして思考・判断・表現力を育てる授業改善**

## ○思いや意図を表す拡大詞・拡大譜の活用

グループで話し合ったことを拡大譜に書き込んでいく。そうすることで、歌い手は意識して歌い、聴き手も目で見て耳で聴いて、その工夫を感じ取ることができると考える。また、漠然と抱いていた曲の雰囲気や感じが目に見える形となってあらわれることで、表現しやすくなるのではないかと考える。

## ○音楽を形づくっている要素を観点として、曲想をとらえたり演奏の工夫を考えたりしていく

児童はこれまでに曲の雰囲気を言葉であらわす活動をしてきている。しかし、なぜそう感じるのかということには至っていない。そこで、音楽を形づくっている要素を基に曲想をとらえる活動をすることで、その変化の理由に気付きやすくなる。そして、こうしたいからこう工夫しようという自分なりの思いや意図をもった演奏の工夫ができるようにしたい。

6 題材の指導計画（8時間計画）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第一次「威風堂々」	ねらい 曲想の移り変わりを感じ取りながら聴く。		
	第1時	○曲想とその変化に気を付けて聴き楽曲の構造に気付く。 ・CDで全体を通して聴き、曲全体の感じをつかむ。 ・曲に合わせて身体を動かし、アとイの曲想の違いを感じ取って聴く。	音楽を形づくっている要素によってつくられる楽曲の構造を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 【鑑一①】
	第2時	○曲想の変化や和音の響きの美しさを味わって聴く。 ・イは教科書の楽譜を見ながら、和音の変化に気を付けて聴く。 ・楽曲全体を味わって聴き、そのよさをことばにする。	リズムや主な旋律の反復、変化などを聞き取りそれらが速度や強弱とかかわり合って生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の構造を理解して聴いている。 【鑑一②】
第二次「まっかな秋」	ねらい 自分の思いや意図をもって、言葉の感じや曲想を生かす工夫をして歌う。		
	第3時	○範唱を聴いたり歌詞を音読したりして、言葉の繰り返しや旋律の特徴に気づく。 ・歌詞を音読し、内容を理解して情景を想像する。 ・範唱を聴き、曲全体の感じをつかむ。 ・範唱に合わせて低音部を歌う。	歌詞と旋律やリズム、強弱とのかかわりに興味・関心をもち、曲想にふさわしい表現で歌う学習に意欲的に取り組もうとしている。 【関一②】
	第4時	○歌詞と旋律の関係や強弱記号とのかかわりに気付いて、歌い方を工夫して二部合唱する。 ・楽譜と歌詞とを見比べながら、歌詞や旋律と強弱記号がどうかかわっているかを確認する。 ・曲想の変化を生かすために、どのように歌いたいかを話し合う。	リズムや旋律の反復、強弱の変化を聞き取り、それらと歌詞の語感とのかかわり合いを感じ取りながら、曲想を生かした表現を工夫し、発声や強弱をつけた歌い方について思いや意図をもっている。 【創一②】
第5時（本時）	○言葉のもつ雰囲気や強弱記号を生かして二部合唱する。 ・発音や呼吸の仕方に気を付けて、前半と後半それぞれの曲想を生かして歌う。 ・自分なりの思いを込めて表情豊かに二部合唱する。	言葉のもつ雰囲気を生かしながら、歌詞の内容や曲想に合う歌い方で表情豊かに歌っている。 【技一①】 リズムや旋律の重なり、反復や変化を聞き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想の変化に合う表現を工夫し、どのような演奏にするかについて思いや意図をもっている。 【創一①】	
第三次「キリマンジャロ」	ねらい 曲想を生かした表現の工夫をしながら合奏する。		
	第6時	○旋律の特徴を生かして主な旋律を演奏する。 ・主な旋律を階名唱し、リコーダーと鍵盤ハーモニカで演奏する。	互いの楽器の音、リズムや旋律の重なり、反復や変化に興味・関心をもち、曲想の変化に応じた表現の工夫をしながら合奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 【関一③】
	第7時	○楽器や旋律の特徴を生かして演奏する。 ・楽譜を見たり、範奏を聴いたりすることで鍵盤楽器1と2の特徴をつかむ。 ・楽器の分担を決め、パート練習をする。	楽器の音色や旋律の特徴を生かして、旋律楽器や打楽器を演奏している。 【技一②】
第8時	○曲想の変化を感じ取って表現の仕方を工夫する。 ・アとイの曲想がどのように変化しているか話し合う。 ○曲想を生かした演奏をするために思いや意図をもって合奏する ・互いに聴き合い、拍の流れにのり、音の重なりを感じながら全体で合わせる。 ・互いの旋律や全体の響きを聴きながら、曲想を生かして演奏する。	互いの楽器の音、リズムや旋律の重なり、反復や変化を聞き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想の変化に合う表現を工夫し、どのような演奏にするかについて思いや意図をもっている。 【創一①】 互いの楽器の音、リズムや旋律の重なり、反復や変化を聴き合い、曲想の変化を味わいながら楽器を演奏している。 【技一③】	

## 7 本時の学習（5／8）

### （1）目標

言葉のもつ意味や雰囲気、曲想を生かした表現の工夫をして歌うことができる。

### （2）展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準〈評価方法〉
<p>1 秋のうたを歌う。 「小さい秋みつけた」を歌う。</p> <p>2 前時のVTRを見て、本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○伴奏をしながら一緒に歌い、発声に気をつけたり声を合わせることの楽しさを味わったりできるような雰囲気づくりをする。</p> <p>○自分たちの演奏を見てどのように感じたか、足りないところはどんなところかを問いかけ、本時のめあてをつかめるようにする。</p>
<p>「まっかな秋」の様子が伝わる歌い方の工夫をしよう。</p>	
<p>3 2つのグループに分かれて意見を出し合い、練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの声が聴き取りやすいよう、教室の前方と後方に分かれて活動する。</li> <li>・楽譜に工夫する点を書き込んでいく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">1回目の「まっかだな～」より、2回目は強く、3回目はさらに強くしてみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">フレーズのまとまりを大切にしよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">「まっかだな」の旋律の違いをしっかりと表現しよう。</div>	<p>○工夫の観点をはっきりさせるため、音楽を形づくっている要素ごとに意見をまとめていく。</p> <p>○個の意見を反映しやすくするために、出てきた意見に沿って必ず歌ってみて確かめるよう声かけをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>◆ リズムや旋律の反復、強弱の変化を聴き取り、それらと歌詞の語感とのかかわり合いを感じ取りながら、曲想を生かした表現を工夫し、発声や強弱をつけた歌い方について思いや意図をもっている。 【創—①】 〈態度観察・演奏聴取・発言・楽譜〉</p> </div>
<p>4 グループごとに演奏を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの演奏を聴き合い、気付いたことや感じたことを発表する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">旋律が上がっているところはだんだん強くなるように歌っていて、盛り上がりがあったね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">ぼくたちのグループは、曲の終わりを強く歌ったけれど、反対に静かに歌っていて、ほっと和む感じがした。</div>	<p>○グループごとの拡大譜を用いて発表するよう声かけをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>◆ 語感を生かしながら、歌詞の内容や曲想に合う歌い方で表情豊かに歌っている。 【技—①】 〈態度観察・演奏聴取・発言・楽譜〉</p> </div>
<p>5 互いのよい点を生かし、全員で二部合唱する。</p> <p>6 初回到録音（録画）した歌声を聴き、学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初回と今日の演奏を聴き比べ、感じたことをまとめておく。</li> </ul>	<p>○どちらの意見を取り入れるかうまく決められない場合は、歌って確かめて決めるようにする。</p> <p>○初めて歌った時の歌声と聴き比べることで、学習の成果を自分の耳で確かめることができるようにし、達成感を味わわせることで今後の活動意欲につなげる。</p>